

『新建築』1950～1995年掲載の建築家による集合住宅作品の概要とその分類について

Abstract and analysis about grouping housings which introduced by SHINKENCHIKU

○清水明¹, 大川三雄²*Akira Shimizu¹, Mitsuo Okawa²

Abstract: After world second war. A lot of grouping houses were supplied by NIHON-JUTAKU-KODAN. These houses were constructed for mass-production and popularization. Against These group houses plan, in this study and analysis deal with group houses designed by architects in each age after world second war. As these group houses samples were collected by Japanese architecture magazine [SHIN-KENCHIKU] published in 1950s~1990s. Main method and purpose is that find some characters and changing through each age by analysis of these planning. In this description, as first analysis. Categorizing these grouping houses which were collected from [SHIN-KENCHIKU] and grouped some keywords in each age. Using these group, more concreted analysis and study about these group houses.

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災と地震に起因した福島原発事故以降, 私達日本人の「暮らし、生活」という概念は大きく崩壊した。20世紀の産業構造とそれに依存した形で供給された負荷の大きい生活の在り方を再考し、「誰と、どの様に暮らすのか」という根本的な問題について議論する時が来ている。こうした問題定義から「家族、世帯」といった従来の生活個体群が血縁関係を越えて住民達が共生する「生活共同体」の在り方を、「集合住宅」というモデルを通して考えたい。

2. 研究の背景と目的

住宅金融公庫(1950)と日本住宅公団(1955)の発足によって, 分譲形式の団地が一般大衆向けに大量供給された。しかし, その建設原理は前述した「生活共同体」の構築を目的としたものではなく, あくまで集合住宅供給の大衆化を目的とした経済的な合理性を追求したものであった。

本論では高度経済成長期に供給された経済原理主導の集合住宅計画に対して, 建築家達が計画した集合住宅に着目する。各時代における計画変遷を建築家達が構想した「集合住宅における住民のコミュニティ形成のための空間」という視点によって分析する事で戦後集合住宅史における「共同体形を形成する為の空間提案と, その変遷を明らかにしたい。

3. 研究方法の概要

新建築社出版の雑誌『新建築』に掲載された各時代の建築家により計画設計された集合住宅作品から選定し, 各文献及び, 各図面の収集・分析を行う。

本稿においては収集する作品事例を1950年から1995年までの約45年間に限定し, 選出した計66作品(表1)について, その概要と分類について記す。

4. 研究対象の概要と分類

『新建築』より選定した各時代における集合住宅の内訳としては, 1950年代から10作品, 1960年代から6作品, 1970年代から21作品, 1980年代から16作品, 1990年代13作品からなる。

各年代における選定事例数の相対的な差に関しては, 雑誌メディアから見た集合住宅事例への関心の相対差として, 分析対象として考慮するものとする。次章から各事例の分類を行う。

1) 1950～1960年代を中心とした分類

1950年代では, この時代に多く紹介された海外大使館館員及び企業社宅の事例をあげ, 集合住宅供給されるようになる以前の, 計画の特徴をその時代と共に検証し, その位置付けを行う。

また, 住宅公団が前川國男を起用し, 1959年に竣工した「日本住宅公団晴海高層アパートメント」を1つの分岐点として捉え, 前川と共に晴海高層アパートメントの設計に携わった大高正人による「坂出人工土地」等に代表される1960年代以降の一連の作品群が挙げられる。

また菊竹清訓, 黒川紀章, 槇文彦, 大谷幸夫らメタボリズムグループによる「集住体」の提案, また集合住宅に「都市性」を内包させるという時代のキーワードをもとに槇, 大高によって1960年代に提唱される「群造形」の理論を用いて計画された集合住宅作品をこの時代におけるひとつの分類として捉えた。

特に1960年代より始まる槇文彦による第1～6期にわたる代官山集合住居計画等に代表される時代ごとの変遷を検証できるシリーズ作品に注目し, 計画初期に提起された概念, キーワードが, 各時代を経て, どのような変遷をたどり, 実作品に表現されたかについて考察できる。

1: 日大理工・院(前)・建築 Graduate School of Science and Technology, Nihon University

2: 日大理工・教員・建築 Prof., College of Science and Technology, Nihon University

表 1 : 「新建築」より選定した各時代の集合住宅 66 作品

年代	作品名	設計者・計画者	年代	作品名	設計者・計画者
1950-56	六甲山麓の英人住宅街	ジャーディン・マセソン設計管理部	1977-79	水戸双葉台団地ショッピングセンター	現代計画研究所(藤本昌也)
	半円形アパート	ジャーディン・マセソン設計管理部		ワットハウス	東孝光建築研究所
	アメリカ大使館館員アパートメントハウス	レーモンド設計事務所		行徳ファミリオ	一色建築設計事務所
	横浜浦島ヶ丘独身社員アパートメント	竹中工務店		芦屋浜高層住宅プロジェクト	ASTM企業連合
	フランス通信社東京支社住宅	前川國男建築事務所	1980-83	散田の共同住宅	坂本一成
	千駄ヶ谷竹友寮一独身社員アパートメント	竹中工務店		石川県宮諸江団地	現代建築研究所(藤本昌也)
1957-59	殿ヶ谷第一アパート	菊竹建築研究所		泉北鴨谷台団地	坂倉建築研究所大阪事務所
	富士重工大宮アパート	生田勉、沖種郎、宮島春樹		神戸ポートアイランド団地	坂倉建築研究所大阪事務所
	倉敷レーヨン西宮第三アパート	倉敷レーヨン営繕部、浦辺鎮太郎、松村慶三		茨城県宮双葉台団地	現代計画研究所、山下和正建築研究所
	日本住宅公団晴海高層アパート	前川國男建築事務所		ドムス香里	美建・設計事務所(石井修)
1960-63	富美ガ丘住宅団地	R I A 建築総合研究所、松田平田設計事務所		児島の共同住宅	安藤忠雄建築研究所
1964-66	コープオリンピア	清水建設		西神ニュータウン 和風タウンハウス	坂倉建築研究所大阪事務所
1967-69	坂出人工土地	大高建築設計事務所		前沢ガーデンハウス	横総合計画事務所
	代官山集合住居計画	横総合計画事務所		六甲の集合住宅	安藤忠雄建築研究所
	桜台ビレジ(多摩田園都市開発拠点)	内井昭蔵建築設計事務所		アメリカ大使館寄宿舎	ハリー・ウィーズ&アソシエイツ
	ペリー・リマハウジング国際コンペ入選案	菊竹清訓、横文彦、黒川紀章	1984-86	都営多摩ニュータウン南大沢団地	東京都住宅局、横総合計画事務所
1970-73	東急ドエル桜台コートビレジ	内井昭蔵建築設計事務所		秋田県営住宅新屋団地	原広司、アトリエ・ファイ建築研究所
	第3スカイビル	渡辺洋治	1987-89	サギノミヤフラッグ	杉浦敬彦、石田信男
	ピラセレーナ	坂倉建築研究所		HAMLET	山本理顕設計工房
	家族集合住宅	山下和正建築研究所		ダイキン工業社宅プロジェクト	鳴海邦碩、田端修、土肥絵理子etc
	川崎市河原町高層住宅団地2号案	大谷研究室	1990-95	南大沢ジートルング	内井昭蔵、坂倉建築研究所、大谷研究室etc
	牧方紳士服団地	竹内建築事務所		北九州市公営住宅 ヴィレッジ香月	アルセッド建築研究所
	広島基町・長寿園高層アパート	大高建築設計事務所		ネクサスワールド	山本理顕設計工房
	代官山集合住居計画第2期	横総合計画事務所		再春館製菓女子寮	妹島和世
1974-76	ピラ・モデルナ	坂倉建築研究所東京事務所		熊本市営新地団地A第1期	早川邦彦研究室
	パサディナハイツ	菊竹清訓建築設計事務所		ヒルサイドテラス	横総合計画事務所
	県営住宅宇多津団地U11-26号棟	香川県土木部建築課		熊本県営保田窪第1団地	山本理顕設計工房
	茨城県宮水戸六番池団地	現代計画研究所(藤本昌也)		コモンシティ星田	坂本一成研究室
	フロムファーストビル	山下和正建築研究所		六甲の集合住宅II	安藤忠雄建築研究所
1977-79	目黒不動前マンション	内井昭蔵建築設計事務所		用賀Aフラット	早川邦彦研究室
	代官山集合住居計画第3期	横総合計画事務所		熊本市営新地団地C第3期	富永嬢+フォルムシステム設計研究所
	茨城県宮水戸会神原団地	現代計画・三上設計経営企業体		実験集合住宅「NEXT21」	大阪ガスNEXT21建設委員会
	都住創松屋町住宅	都住創プロジェクトチーム		幕張ベイタウン パティオス1-6番街	事業計画調整委員会

2) 1970~1980年代を中心とした分類

1970年代以降に多く紹介された低層の県営集合群をその中心として、藤本昌也によって提起された「大地性の回復」をテーマとして扱う。区分した時代における低層集合住宅群と「大地性の回復」というキーワードを軸として1950年代~1990年代にまたがる低層集合住宅作品を分析し、その計画の変遷を明らかにする。

また、1979年に竣工したASTM企業連合による共同計画された「芦屋浜高層住宅プロジェクト」等を初め、1980年代の田端修、土肥絵理子等による「ダイキン工業社宅プロジェクトプロジェクト」、1990年代へと続く内井昭蔵、坂倉研究所、大谷研究室等による「南大沢ジートルング」レムコールハース、ステイヴンホール、石山修等による「ネクサスワールド」等に見られる複数の建築家によって共同計画・設計された一連の集合住宅群を1970年代以降の新たな分類として定義し、各時代において分析を通してその変遷をたどる。

3) 1990年~1995年の分類

1992年の山本理顕による「熊本県営保田窪第一団地」や妹島和世による「再春館製菓女子寮」など、プライベート/パブリックに関する概念の空間化に対して新しい解釈、提案が提出され、こうした事例を中心として、1950~1990年代までの分類と、各建築家によって提出されたキーワード・概念と共に199

0年代以降の集合住宅の傾向の定義を行う資料とする。

5. おわりに

選定した集合住宅66作品を上記した各章による4つ分類によって表した。以上の分類と、各時代に建築家達によって提起された理論やキーワードを分析対象とし、時間軸に沿って検証を行い、建築家による集合住宅におけるコミュニティ形成空間の提案の事例と、その変遷を捉えたい。

5. 主要参考文献

- 『新建築 1995年12月臨時増刊創刊70周年記念 現代建築の軌跡 1925-1995「新建築」にみる建築と日本の近代』
- 『新建築 1977年6月臨時増刊号』1977年6月 新建築社
- 『新建築』1971年11月, 1972年2, 11, 12月 1973年5, 10月 1974年12月, 1975年3月, 1975年3月, 1976年3, 7月, 1977年5月, 1978年1, 4, 7, 11月, 1979年3, 12月, 1980年11月, 1981年5月, 1982年4, 5月, 1983年1, 6, 10月, 1984年6, 9月, 1988年9, 10月, 1991年5, 10月, 1992年6, 7月, 1993年7, 10月, 1994年3月, 1995年4月 新建築社
- 『住宅特集』1990年5, 7月, 1992年7月, 1994年1月 新建築社